

新燃岳噴火対策の治山事業について



(火山灰の堆積した高千穂峰)

新燃岳は平成23年1月26日に約300年ぶりとなる大噴火（噴煙2500m以上）を起こし、霧島山系周辺の自治体に大きな被害をおよぼした。その後の継続する噴火により山頂付近には多量の降灰が堆積して、台風や集中豪雨で土石流の発生が心配されるようになった。

このため、地域住民の安全・安心を確保するため、治山事業により土石流の発生の危険性が高い溪流において、土石流監視用のワイヤーセンサーを設置（3溪流）、溪流堆積土砂の除去（排土工24,000m³）、治山ダム等の新設（平成27年度末で46基）などの治山工事を施工し、下流の地域住民への被害防止に取り組んできました。

溪流に設置されたワイヤーセンサー
(上・中・下の3本張ってある)

上

中

下



流れてきた木により切断された
ワイヤーセンサー
3本の内の1番下

新燃岳噴火対策の治山事業について Ⅱ



降灰量の調査を実施し、防災対策の検討を行いました



火山灰の流出を防ぐため緊急的に大型土のうを設置しました



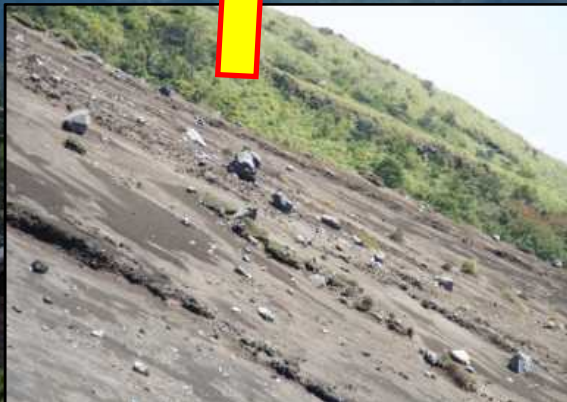
火山灰の流出に備え既設の治山ダムにたまっていた土砂の排土を行い、火山灰をためるためのポケットを作りました

新燃岳噴火後の御鉢・高千穂峰の南斜面荒廃地状況

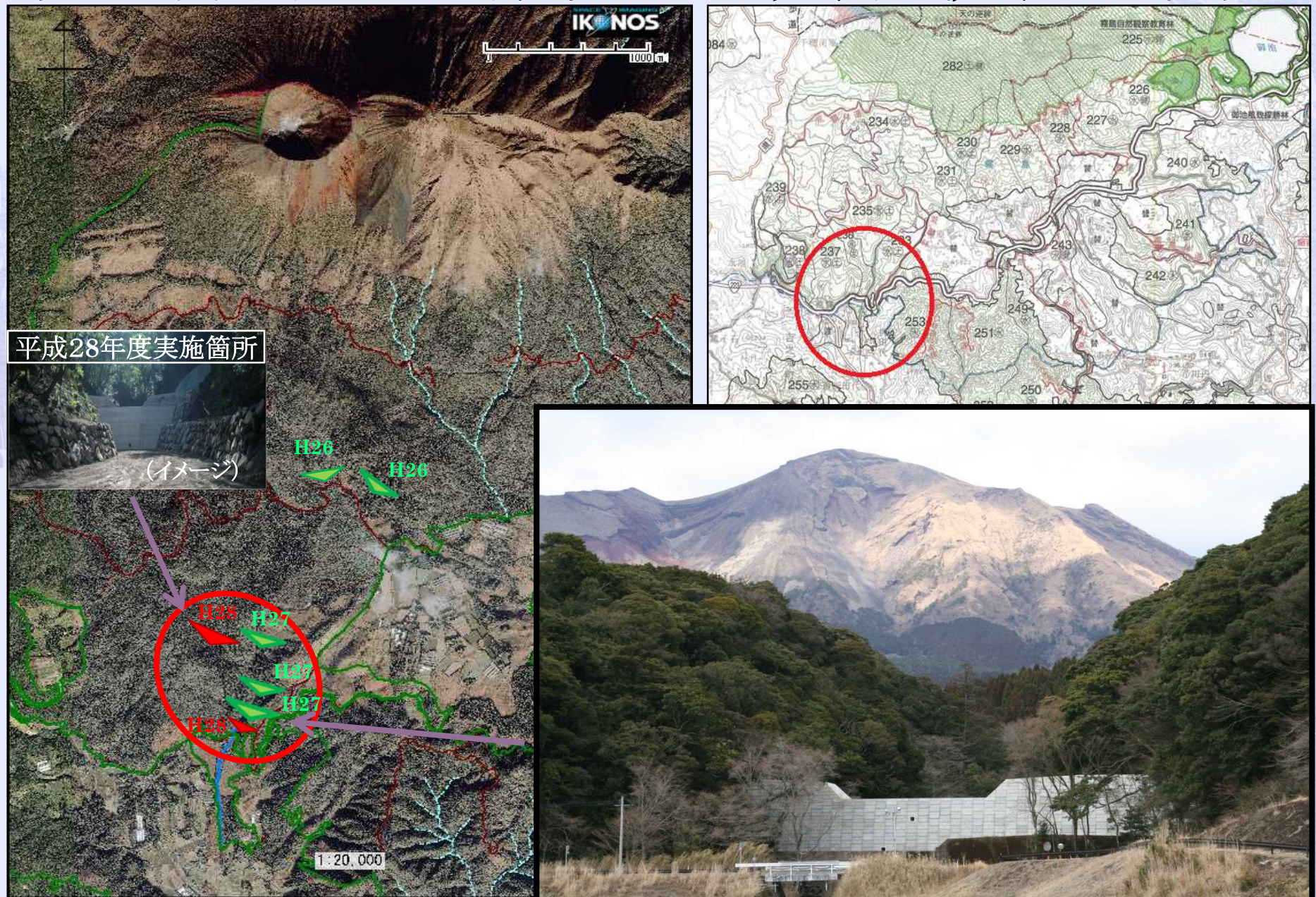
(火山灰の堆積した御鉢)



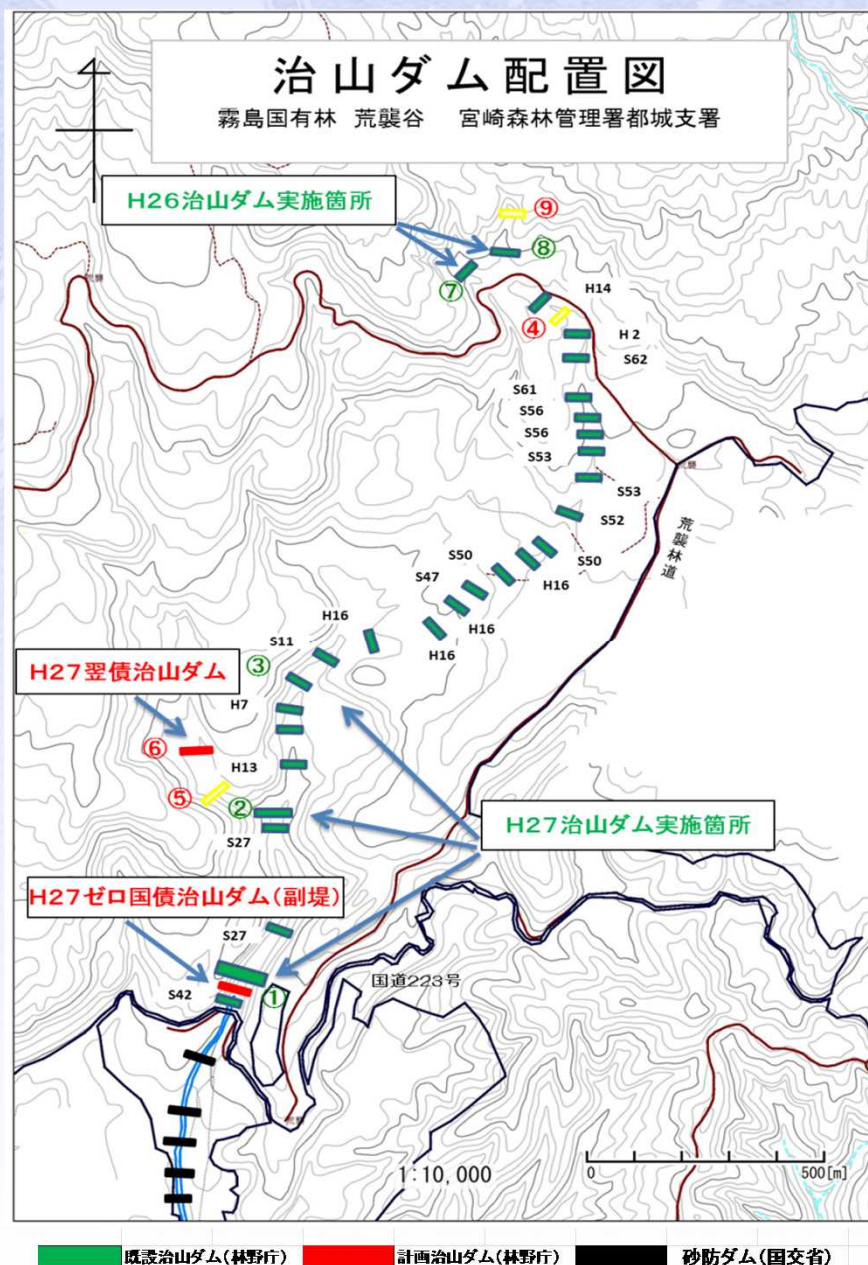
(火山灰の堆積した高千穂峰)



御鉢・高千穂峰の南斜面にある荒襲谷流域の位置図



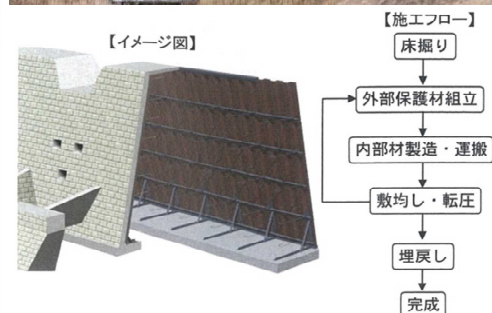
荒襲谷流域内における治山施設(計画)



荒襲谷における治山事業は、治山事業全体計画を踏まえ、緊急性の高い箇所から施工しております。平成26年度に現流域別計画最上流部に2基治山ダムを施工しました。

平成27年度は最下流部にあたる国道223号直上に1基、その上流部に2基治山ダムを施工しました。

また平成28年度は副堤1基と支流に1基の治山ダムを施工予定です。



平成27年度に完成(本堤)した荒襲谷最下流の治山ダムはSBウォール工法(ソイルセメント)という治山事業では九州初の工法を採用し、高さ14.6m延長80.5m 放水路天端幅6.7m 体積は約8,740m³となり流域最大級の大きさとなっています。

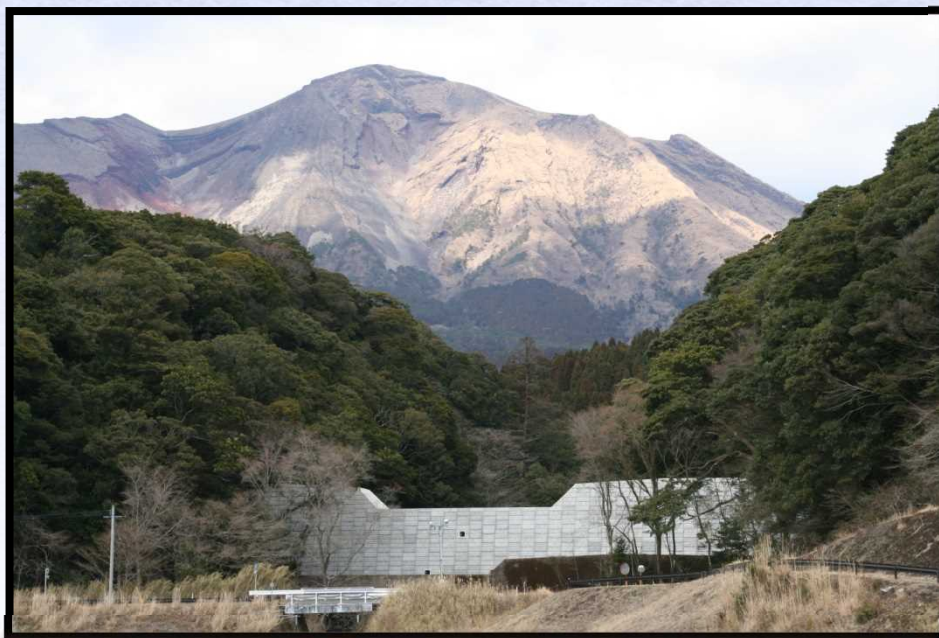
平成27年度の治山工事が完成

都城支署では荒廃溪流の復旧、荒廃のおそれのある溪流等の災害予防、また平成23年1月に噴火した新燃岳の多量の火山灰が集中豪雨等で土石流となって流出しないよう、治山ダム等を施工し、地域住民の方の安心・安全に寄与しています。

治山ダムの目的

- 1 溪床勾配を緩和して安定した勾配に導き、縦侵食及び横侵食を防止すること
- 2 山腹斜面の山脚を固定して、崩壊の発生等を防止すること
- 3 溪床に堆積した不安定土砂の移動を防止すること
- 4 土石流による溪流の荒廃を防止して、下流への土砂流出を抑止すること

平成27年度は新燃岳噴火対策工として3基(うち1基は本堤・副堤のうち本堤のみ)の治山ダムが完成しました。



都城市吉之元町西岳上流 荒襲谷最下流域
に完成した流域最大級の治山ダム

荒襲谷下流
域に完成し
た治山ダム



荒襲谷中流
域に完成し
た治山ダム